

授業科目名： 国際地域学研究基礎			担当教員名： 黒田俊郎、ミラー枝里香
選択/必修： 必修	単位数： 2	セメスター： 1 前 1 Spring	開講言語： 日本語

ディプロマポリシーとの関連：

国際社会の知識	政策分析能力	英語コミュニケーション能力
●	●	

○授業の到達目標及びテーマ

国際地域学で取り扱う領域を国際研究、外交史研究、地域研究の3つの側面から検討し、受講生に国際地域学の概要を把握してもらう。

○授業の概要

- 1) 国際研究 (10回：黒田俊郎)
- 2) 外交史・地域研究 (5回：ミラー枝里香)

○授業の方法

- 1) 英語で行うクラスと日本語で行うクラスを置くため、履修についてはオリエンテーションで指導する。この授業は日本語で行う。
- 2) 受講生は指定された文献を読み、また授業での討議に積極的に参加することが求められる。
- 3) 受講生には複数の課題レポートの作成が求められる。詳細は授業時に指示する。

○授業計画

第1回 (黒田俊郎)

前半 10 回の「国際研究」パートの概要を提示。今年度は、日本語で行うという本授業の特性に鑑み、戦後日本における国際政治学の創設に深く関わった二人の知識人、高坂正堯と坂本義和の著作の精読を通して、「国際研究とは何か」、その意義と可能性、そして可能なら限界についても受講生と共に検討したい。

第2回 (黒田俊郎)

高坂①：テキストは『古典外交の成熟と崩壊』I II (中公クラシックス) を利用する。

第3回 (黒田俊郎)

高坂②

第4回 (黒田俊郎)

高坂③

第5回 (黒田俊郎)

高坂④

第6回 (黒田俊郎)

坂本①：テキストは『権力政治を超える道』(岩波現代文庫) を利用する。

第7回 (黒田俊郎)

坂本②

第8回 (黒田俊郎)

坂本③

第9回 (黒田俊郎)

坂本④

第 10 回（黒田俊郎）

まとめの回。高坂と坂本、二人の議論の比較を行い、課題に対する暫定的な結論を導く。

第 11 回（ミラー枝里香）

講義：戦後国際関係史 1

リーディングは講師が用意したオリジナルテキストになるため、第 9-10 週に配布する。

第 12、13 回も同様。

第 12 回（ミラー枝里香）

講義：戦後国際関係史 2

第 13 回（ミラー枝里香）

講義：地域戦争に対する国連と国際社会の対応

第 14 回（ミラー枝里香）

11 回と 12 回の講義に基づき学生がプレゼンを行う。その後ディスカッションを行う。

プレゼンとディスカッションのために、講師が準備したオリジナルテキストに加えて、各自論文を読んで知識を深めておくこと。論文のリストは第 11 回の授業中にシェアする。

この点は第 15 回も同様。

第 15 回（ミラー枝里香）

13 回の講義に基づき学生がプレゼンを行う。その後ディスカッションを行う。

○テキスト

各週に提示（授業計画を参照）

○参考書・参考資料等

各週に提示（授業計画を参照）

○学生に対する評価

1) クラス討論への貢献: 30%

2) 課題レポート（日本語）: 70%

○オンライン授業に切り替えた場合の授業形態

授業形態：オンライン授業（リアルタイム配信型）

資料・連絡事項掲載場所：担当教員に確認